

2019年12月16日快晴

この所は「2020年が来るぞ!という感じが強い「令和元年も残り2週間」です。

私は昭和のテレビっ子です。アニメを皮切りに怪獣ものも歌番組もバラエティーも全て見たくて日々母とバトルの毎日でした。そんな中唯一家族一致して見られたのは某脚本家の方と同じく日曜日の夜8時NHKの「大河ドラマ」の時間。私は日本中の家庭がそうだったと信じておりました。

が結婚後一時はその習慣が危ぶまれましたが、子どもを巻きこむ事に成功し、二人になった現在まで「日曜8時のチャンネル権」を死守してまいりました。

しかし近年は視聴率が悪い番組とか出演者のイザコザなどにより私には全く無関係にも係わらず、夫から「まだ見るの?」と言われ「とにかく最後まで見る」と。なんとか最終回を迎えたのでした。

来年はこの習慣もおわりか・・・とほぼ観念していた最終回15日。

電波時計が8時2分を表示したのを確認し、主人の横のリモコンに手を伸ばしそっと「1」を押す。

あきらかに「しょうがねーな・・・つきやってやるか?」的オーラが出ているのが常です。

が、さすがに最終回となると少しは興味がわくのか?時折、顔をあげて観ています。

そして「アベベの走っているのを生でみたんだよな?」と he said「はいはい見ました」

「甲州街道最前列で日章旗もって見てました。」と過去幾度か伝えた事を再回答。

私・・・彼がなぜ急にそんなこと言い出すのか?その思惑がわからず少々困惑。

お箸を口にし、右目で画面、左目で慎重に彼の様子を観察し「どう反応したら一番よいのか?」と言い過ぎは自滅です。その状況判断に五感を研ぎ澄まし、夫の次の言葉を待ちます。

「2回目というけど、俺は前回印象にないんだ」(ちなみに夫は私より3歳年上)

私「・・・」彼「オヤジがカラーテレビ買って家に来たけど何をみたかな?覚えてないや」私「・・・」

「バレーみたかも?マラソンは全然みた記憶ないな」私「カラーテレビすごいね・お父様らしい!」

まだ意図がつかめないので誉める要素をチラリと入れながら観察継続。

そして・・・彼がレモン酎ハイを飲み干して一言「生きてる間にはもう2度とないから今度はしっかり家でテレビでみる。来年3月で会社行かなくなるから・・・」私「・・・あっそうなんだ。完全に退職ね(少し延長されていました)」あそう・・・へー・・・そうなんだ」

そこかい!!!

私には「大河ドラマ」の権利確保の方が大問題。会社いなくなるのは貴方で私ではございません。

自分で決めたならそれでいいじゃないですか?ですが・・・ただし・・・必ず・・・きっと・・・

昼間の放映と一緒に見る事はありませんから・・・私今度は23時のダイジェストで結構です

と思いつつ・・・「じゃ2020年のオリンピックはしっかり記憶にのこるね」と I said.

こんな会話で2019年の12月15日 日曜が終了しました。

令和2年 2020年は一体どういう年になるのでしょうか。

願わくば子ども達にオリンピックがあった年。面白かった年と良い記憶だけが残る1年になります様
そして我が家の日曜夜8時が変わらず・・・彼は彼なりの・・・私は私なりの生き方や想いでを持ち
ほんの少しだけ重ね合い1年が過ぎます様願います。

人はそれぞれの人生の中で主役。代役はいません。

主要な役割を責任を持って最終回まで見事にその舞台にたちつづけましょう。

と言う所で次回はっきり頑張って25日には仕上げまーす。

数少ない読者へのご挨拶はその時に・・・